

# JSS北海道 第8回地方会

実行委員長 菊地 実 (萬田記念病院)  
主催 JSS北海道地方会・日本超音波検査学会

超音波検査において、依頼目的に沿って検査を施行し、所見を的確に捉え、表現し伝達することはとても重要です。検査所見は、その詳細を迅速正確に医師に伝えなければならず、超音波診断には欠かせないものです。そこで、今回は「超音波所見の捉え方とレポートの書き方」をテーマとします。第I部では一般演題の発表を行います。第II部では、まず、道内数施設のレポートの書き方、保存方法のアンケート結果を報告します。続いて超音波所見をどう捉え、どのようにレポートに表現しているのか、実際の症例を提示しながら各領域別に口演していただきます。第III部では、最近生理システムが導入された東海大学医学部付属病院における超音波画像とレポートのファイリングシステム構築と運用、実例から学ぶ所見の捉え方とレポート記載法についてご講演していただきます。第IV部では、総論として医師の立場から臨床医が求める超音波所見とレポート記載法のポイントについてご講演していただきます。レポート記載法やファイリングをとおして、依頼目的にそった検査とは、臨床側が必要とするレポートとは、超音波所見の基本的な記載方法などを学んでいただきたいと思います。

多数の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

## 記

テーマ：『超音波所見の捉え方とレポートの書き方』

日時：2008年3月1日（土）14時00分～18時10分（受付：13時00分～）

会場：札幌医科大学教育研究棟1階 大講堂（定員：300名）

参加費：正会員（事前登録）：1,000円 正会員（当日受付）：1,500円 非会員（事前登録なし）：3,000円

ご注意：\*事前登録制を導入しています。

受付期間：2008年1月28日～2月8日（※2008年1月18日～WEB先行受付）

※変更となる場合もあります。詳細は学会ホームページ（<http://www.jss.org>）をご参照ください。

\*事前登録は登録時点で入会が承認されている会員の方のみご利用が可能です。

非会員の方や入会手続き中の方はご利用いただけません。

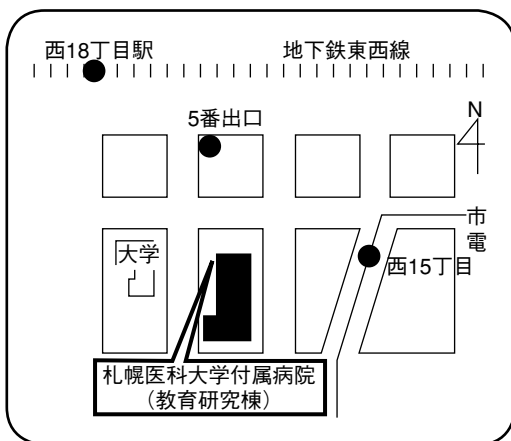
\*事前登録の方のみで定員に達した場合は、未登録の方の当日ご参加はお受けできません。

\*事前登録で空席がある場合にもみ当日のご参加をお受けいたしますが、受付開始は事前登録の方を優先させていただきます。

\*地方会ご参加の方は事前登録の有無に関わらず、会員証をご持参ください。

\*会場内でのビデオカメラおよびデジタルカメラでの撮影は禁止といたします。

\*本会は、日本超音波医学会認定の検査士資格更新、5単位が取得できます。



## 札幌医科大学臨床研究棟1階 大講堂

北海道札幌市中央区南1条西16丁目  
(付属病院の北側)

□札幌市営地下鉄東西線「西18丁目駅」下車  
5番出口より徒歩3分

□札幌市営電車「西15丁目」下車徒歩3分

連絡先：〒080-0805 北海道帯広市東5南9-2 帯広協会病院検査科 田村 悦哉

TEL: 0155-22-6600 E-mail: [tamura@jss.org](mailto:tamura@jss.org) (できるだけメールでお願いいたします)

JSS北海道 第8回地方会 プログラム

3月1日(土)

13:00~13:50	受 付
13:50~13:00	開会挨拶・オリエンテーション
13:50~14:00	<p><b>第I部 一般演題</b>            司 会：鬼柳かおり（東旭川病院検査科）</p> <p>演題1「下肢の深部静脈血栓症診断における造影CTとUSとの比較検討」            増田 香織（北海道大学病院診療支援部）</p> <p>演題2「腎細胞癌胆嚢転移の一例」            川崎 千絵（大黒胃腸科病院臨床検査科超音波室）</p> <p>演題3「非浸潤性乳管癌症例における超音波像の検討」            栗田 浩二（JA北海道厚生連帯広厚生病院放射線技術部門）</p>
14:30~16:10	<p><b>第II部「超音波所見の捉え方とレポートの書き方」</b>            司 会：菊地 実（萬田記念病院放射線科）</p> <p>超音波所見レポートについての事前アンケート結果報告            菊地 実（萬田記念病院放射線科）</p> <p><b>各論</b></p> <p>① 腹部領域            講 師：浅野真由美（KKR札幌医療センター生理検査科）</p> <p>② 表在領域            講 師：小田原恵子（王子総合病院臨床検査科）</p> <p>③ 心臓領域            講 師：井上真美子（北海道大学病院診療支援部検査部）</p> <p>④ 血管領域            講 師：照澤 和仁（札幌東徳洲会病院バスキュラーラボ）</p> <p>超音波所見レポートについて、事前に行った道内施設へのアンケート結果の報告を行います。続いて各施設、それぞれの領域において実際の症例における所見の捉え方や表現方法、レポートの書き方、保存方法について口演していただきます。</p>
16:10~16:20	休 憩
16:20~17:10	<p><b>第III部「超音波所見レポートの電子化とシステムの構築」</b>            講 師：白石 周一（東海大学医学部付属病院臨床検査技術科）            司 会：神 幸二（NTT東日本札幌病院臨床検査科）</p> <p>超音波診断装置のPACS化とレポートの電子ファイリングの構築と運用について、実際の過程とその経緯をご講演いただきます。続いて、実例を提示しながら東海大学医学部付属病院における所見の捉え方、レポートの記載法、レポートに使用しているシェーマ活用法などについてご講演していただきます。実際に電子カルテが導入されていない施設でも、全国有数の大学病院において、超音波所見をどう捉え、どう記載しているかのテクニックは大変参考になると思います。</p>
17:10~17:20	休 憩
17:20~18:10	<p><b>第IV部 総論「臨床が求める超音波所見の捉え方とレポートの書き方」</b>            講 師：廣川 直樹（札幌医科大学放射線科）            司 会：西田 睦（北海道大学病院診療支援部）</p> <p>総論として臨床医が求める超音波画像と所見、レポートの書き方について、ポイントを押さえて解説していただきます。スクリーニングから術前の精密診断、RFAガイド下治療に必要なエコー情報、造影エコーまで医師の立場からご講演していただきます。</p>